

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第36週（9月5日～9月11日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 増加継続」

第36週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,653例であり、前週比16.0%増であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、手足口病、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.43、2.31、2.22、0.60、0.30である。

RSウイルス感染症は前週比14%増の477例で、南河内6.94、堺市5.37、泉州2.84、北河内2.80、大阪市西部2.10であった。

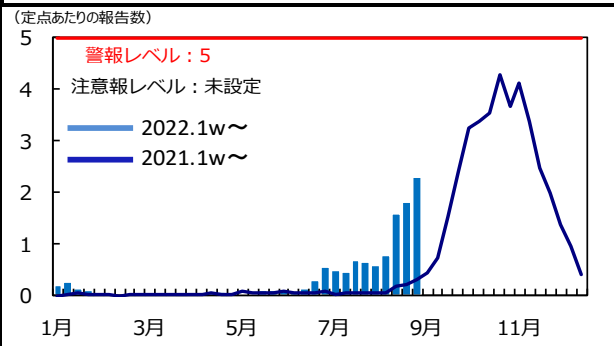
手足口病は27%増の453例で、大阪市南部3.44、三島3.41、南河内3.13である。

感染性胃腸炎は4%増の435例で、南河内3.81、中河内3.25、大阪市南部2.83であった。

ヘルパンギーナは27%増の117例で、大阪市北部0.93、泉州0.89、三島0.82である。

インフルエンザは50%増の6例で、定点あたり報告数は0.02であった。

手足口病



ヘルパンギーナ

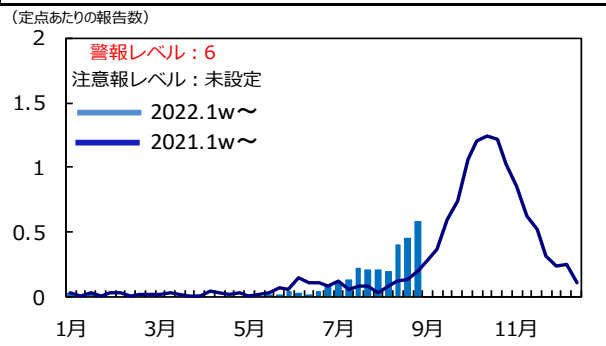


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第36週9月5日～9月11日）

第36週の順位	第35週の順位	感染症	2022年第36週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第36週の定点あたり報告数	2022年第36週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.43	14%増	0.69	1歳_29%
2	3	手足口病	2.31	27%増	0.31	1歳_37%
3	1	感染性胃腸炎	2.22	4%増	2.59	1歳_18%
4	4	ヘルパンギーナ	0.60	27%増	0.20	1歳_32%
5	7	突発性発しん	0.30	48%増	0.35	1歳_49%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.02	50%増	0.00	5歳_33%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第36週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

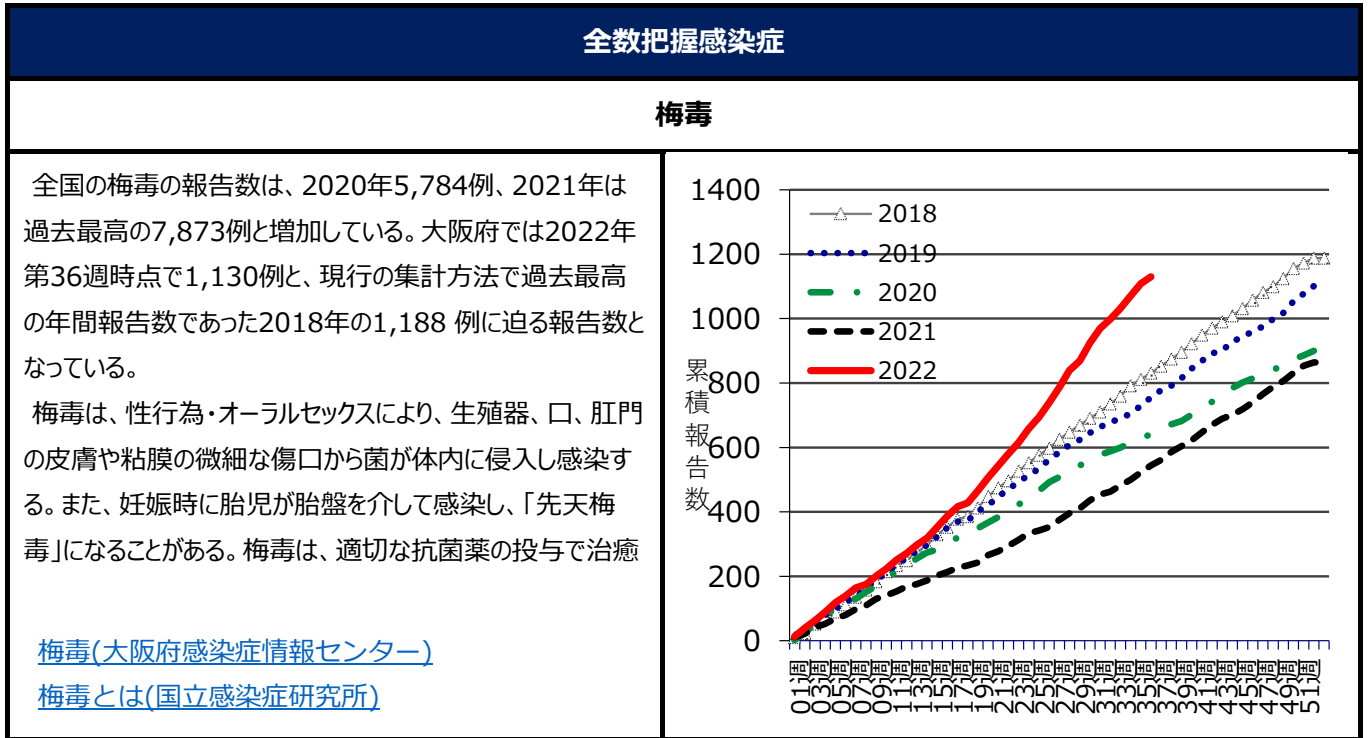


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第36週9月5日～9月11日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内								報告数	府内累積
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8			1	2					5	128
4類感染症	デング熱	1								1		8
	日本紅斑熱	1								1		7
	レジオネラ症（肺炎型）	4					1		1	2		71
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1									1	87
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1									1	25
	後天性免疫不全症候群	1				1						67
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1									62
	梅毒	21	2	1	1	2		1		14		1130
	百日咳	1								1		20
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	54,036	2020年1月以降累計								2,009,334	
結核 (2022年7月分)	結核 新登録患者数：48名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 20名) (府内累積報告数 578名、内 肺・喀痰塗抹陽性 214名)											

(2022年9月13日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)